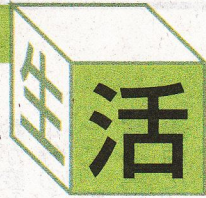


◎ 東京新聞

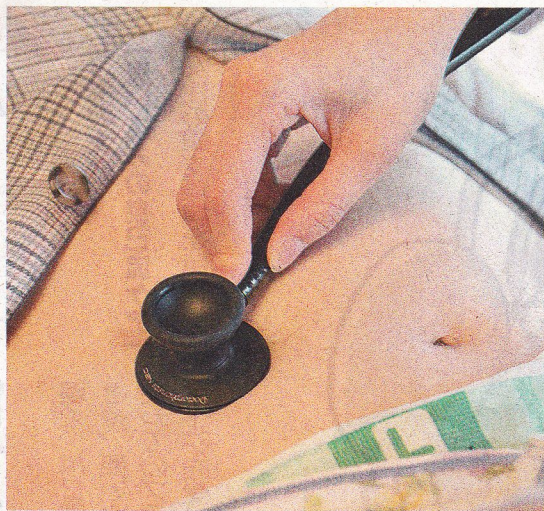


感染性胃腸炎

冬場には「胃腸のカゼ」ともいわれる「感染性胃腸炎」が流行します。小児や高齢者がかかりやすい病気とされ、東京都内の小児科医療機関での患者発生件数は、昨年十二月十六日からの一週間で平均二九・四人と、過去十年で最多となりました。また、都内の社会福祉施設などにおける高齢者の集団感染は、同月一日現在、今シーズンで四十六件が報告されています。

主な症状は腹痛や嘔吐、下痢など

一人暮らし 重篤リスクも



腹部を聴診する

で、「胃腸炎」という診断名がつきます。原因としてはノロウイルスによるものが有名ですが、実際は何種類のウイルスが関与します。ノロウイルスは二枚貝などの食品から感染する場合もあり、食中毒の原因にもなります。

患者の多くは症状も軽く、数日中に軽快しますが、高齢者は嘔吐などにより食事ができないことが多いので、治療は脱水に対する点滴を行います。また、吐いたものが気道に入ると窒息や肺炎をきたすことがあるので、注意が必要です。予防は手洗いでウイルスを除去することが効果的ですが、吐物や便についたウイルスを除去するには、アルコールなど通常の消毒薬は効きません。塩素系の消毒薬が必要です。昨年十一月からの二カ月間で、当院で在宅療養を受ける患者の感染性胃腸炎の発生率をみると、患者千人あたり一日〇・八三件でした。年齢の中央値は七十二歳で、大半は点滴で軽快しましたが、八十代で独居の方は低体温症から腎不全を併発し、亡くなりました。高齢者の一人暮らしは感染性胃腸炎でも重篤になる可能性があるのです。

(川崎高津診療所院長)  
次回は二十九日掲載